

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所属(本学)	大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻		
帰国時の学年	修士 2 年		
留学先国	アメリカ合衆国	留学先大学	カリフォルニア大学バークレー校
留学期間	2016 年 8 月 17 日～2017 年 5 月 12 日		

① 留学先大学(機関)の概略

アメリカ合衆国有数の大学、特にコンピューターサイエンスとビジネススクールが注目を浴びている。私は当大学大学院の環境デザイン学部のランドスケープ学科に所属した。こちらもランドスケープ分野において有名である。

② 留学前の準備

留学目的としては、実践的な都市計画・環境計画プロセスを体感することであったので、当初は修士論文への結びつきは考えていなかった。なので、その時点での自分の興味のあるテーマをまとめ、研究プロポーザルを作成し、留学中のアドバイザーを担当してくれる教授を探した。(ちなみにアメリカでは「研究室に所属する」というのは博士後期課程以降が通常なので、前もってコネクションを作っておくとアドバイザーは見つけやすい)その後のビザ取得までは非常にスムーズにいった。

③ 留学中の勉学・研究

学生研究員という立場で留学したので、授業は正式にはとっていない。なので、履修管理システムへの登録も行っていない。しかし、授業に参加して教授と交渉すれば聴講生として受講できるので、そのような形で複数の授業に参加できた。時間割などは教授や現地の学生に聞いて情報を得た。アメリカの大学院での授業は私が体験した日本のものと比べると非常に実践的で、行政や NPO など絡んでくる。また、グループワークが多いので、それらを通して

コミュニケーション能力、知識、ともに成長したと感じている。

また、授業以外にも構内の小川の整備事業などのプロジェクトにボランティアとして参加した。飛び込みで行ってもアメリカならではの非常にウェルカムな雰囲気なので、参加しやすかった。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

UC バークレーのランドスケープ学科に正式に所属している日本人学生、日本から交換留学で来た建築学科生と共に都市デザインコンペティションに応募した。日本ではあまり分野を横断して、というようなことはないので非常にいい経験になった。コンペティション自体は最終審査まで残ることができ、佳作をいただいた。

学科のホームページで紹介されていた Meeting of the Minds という学会のボランティアとして参加した。

寮で知り合ったソーシャルイノベーションを中心に活動している日本人学生と知り合ったことをきっかけに、VIA という団体のサポートのもと、マイアミで開催された Ashoka U Exchange という学会に参加した。

一緒にコンペティションに取り組んだ人達と一緒に西海岸、東海岸の都市を巡り、さまざまな建築や公園、オープンスペースを見に行った。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学を通して、自分の中で「学生にできる範囲」というものがなくなった気がする。頑張れば、

学生であっても道を拓けると実感した。しかし、そのためには自分が何者か、何ができるのかをはっきりさせるとともに、ある程度「使える」技術を持っておくことが重要である。留学を終えて、就職活動で忙しいので成長したと実感したエピソードは、まだない。

⑥ 留学費用

留学の費用は、寮費が一番かさんだ。それ以外は特にかかっていない。

⑦ 留学先での住居

寮では、大学院生は一人部屋、学部生はルームシェアである。ルームメイトは自分で選べないので、文化の違いで苦労している日本人留学生も見かけたが、英語の上達などには非常にいいように見受けられた。

⑧ 留学先での語学状況

特に苦労しなかった。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

単位認定は行っていない

⑩ 就職活動

ボストンキャリアフォーラムというイベントに参加した。が、それ以外は特にしていない。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

物価が高いのは苦労したが、特に困ったことはなかった。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

就職活動に関して

エントリーが始まったあたりで説明会やテストセンターなどで一時帰国している人は帰国後にあまり苦労せずに就職先を決めているので、エントリーの時期には一時帰国をお勧めする。

宿泊先について

寮は月 20 万と非常に高いので、学期開始 2 週間前くらいに行き、宿を探すほうが得策である(下宿は月 7-9 万程度)。インターネット上だけで済ませようとするすると詐欺に引っかかる可能性があるため、現地で必ず探すように。

留学保険に関して

携行品の保証は入っておいて損はないので、入っておいたほうがいい。知り合いで運悪くカメラが連続で故障する、という事態があったが、修理代は保険でカバーできていた。